

木質バイオマス発電所完成

出力2万kWで東北最大規模

ユナイテッドリニューアブルエナジー

ユナイテッドリニューアブルエナジー（秋田市、平野久貴社長）が秋田市向浜に建設を進めていた木質バイオマス発電所が1日から本格的に操業を始めた。15日に同社発電所敷地内で神事と竣工式が行われ関係者ら約130人が完成を祝った。平野社長は「再生エネルギーの割合は全国で4・4%となっているが、そのなかで木質バイオマス発電は比率が低く、予想以上に遅れている。しかし、林業者とのコンセンサスができたことで、発電所を建設できた。これからも林業関係者と付き合いを重ねていきたい」とあいさつした。

同発電所は、2014年11月に着工し、16年7月に操業した。約2万8000平方メートル敷地内に高さ約50メートルのボイラを整備して発電所を構築した。総事業費は約125億円。北都銀行や新生銀行など9つの金融機関や民間企業が、事業による利益のみを返済原

資に充てる「プロジェクトファイナンス」を組織して融資した。発電の規模は、年間

約1億4000万kWhを見込んでおり、FITを利用して東北電力と新電力事業者に売

電する。年間5万トンを輸入する。式典終了後、工場見学会が行われた。県内杉木質チップが大量に積み込まれ、PKSも資材置き場内に保管されていた。また、発電を行うための大型ボイラが設備されており、このボイラで木質チップやPKSを燃やして発生させた高温・高圧の蒸気を使用してタービンを回し発電する仕組みが説明された。また、管理棟内玄関広場に発電にかかわるモニターシアとマレシアから



本格稼働したバイオマス発電所

から年約11万5000トンを購入するほか、PKS（パーミュヤシ殻）をインドネシアとマレシアから